



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



遠
2378
208

かながまてかんのおらむり

假名手本忠臣蔵

女二幕

山梨 鷲川四員勇

山梨 鷲屋南北魁

假名手本忠臣蔵の深堀屋本八重保の旗行田出雲は
作りし百者破年法今にありても尚廢事と云ふ
は十七代迄の流傳致すは女二幕の由り大道を
大仕懸の所らあなれ工を致すと云ふも狂言を
逸古乃仕懸ふらたのりては流傳は忠臣蔵と云
ひあるを其本文の撰者大塚と云ふ十一代目
おんどの大意のうら流傳を五度立し其書をかり物
復作慶に十一段を編集し女二幕の續と云ふ及
愚昧乃落書と云ふや其のまゝ手本の書張と題

丙戌孟春

鷲屋南北戲述





大序

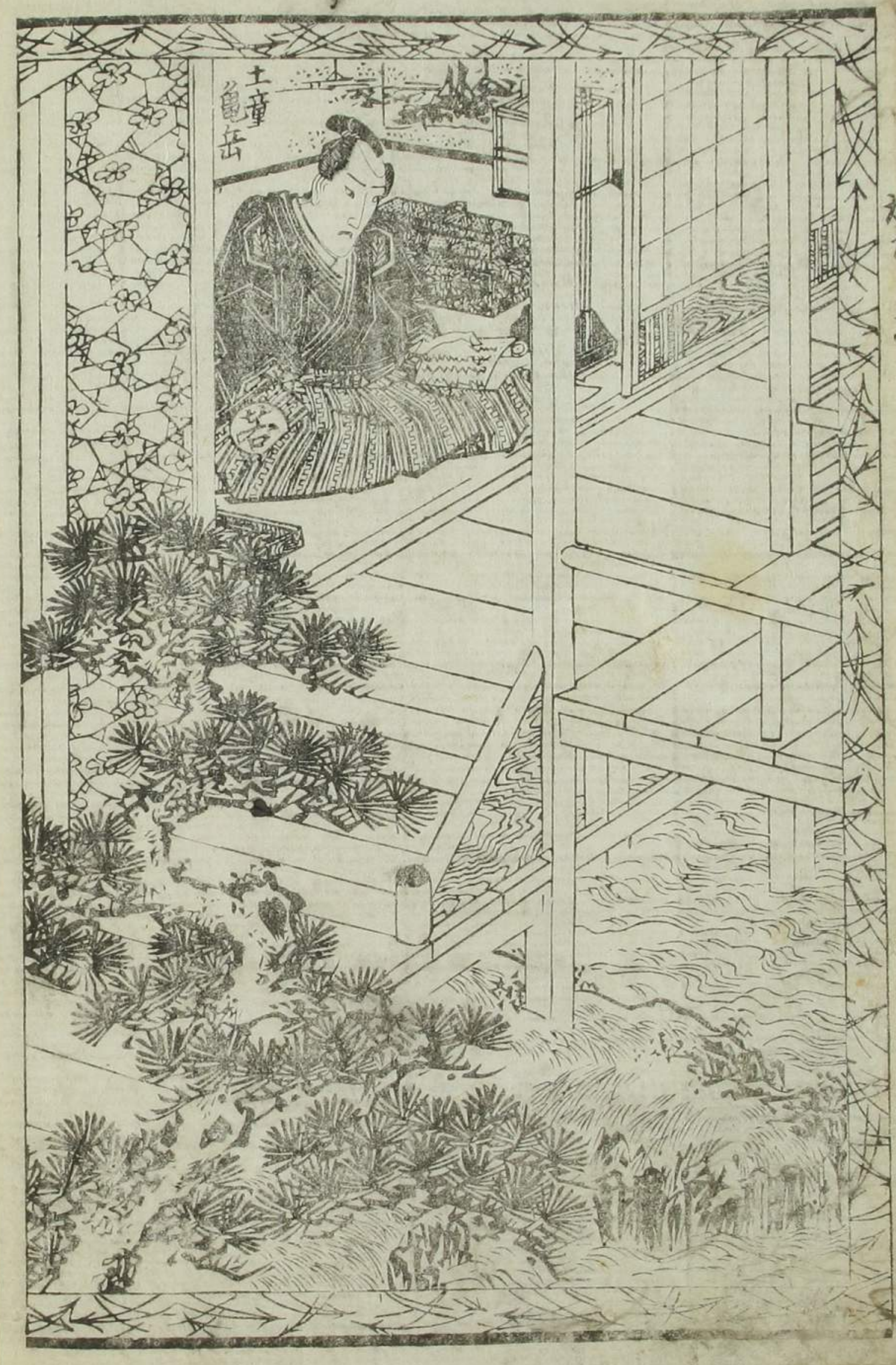
此丹子の大序ハ昔ハ必ズ
 後ノ通ハ人ノ手ノ
 後ノ通ハ人ノ手ノ



此丹子の大序ハ昔ハ必ズ
 後ノ通ハ人ノ手ノ
 後ノ通ハ人ノ手ノ



和式
 茶室の
 茶を
 飲む
 様子
 の
 役者
 の
 所作
 の
 様子



土
 章
 魚
 岳

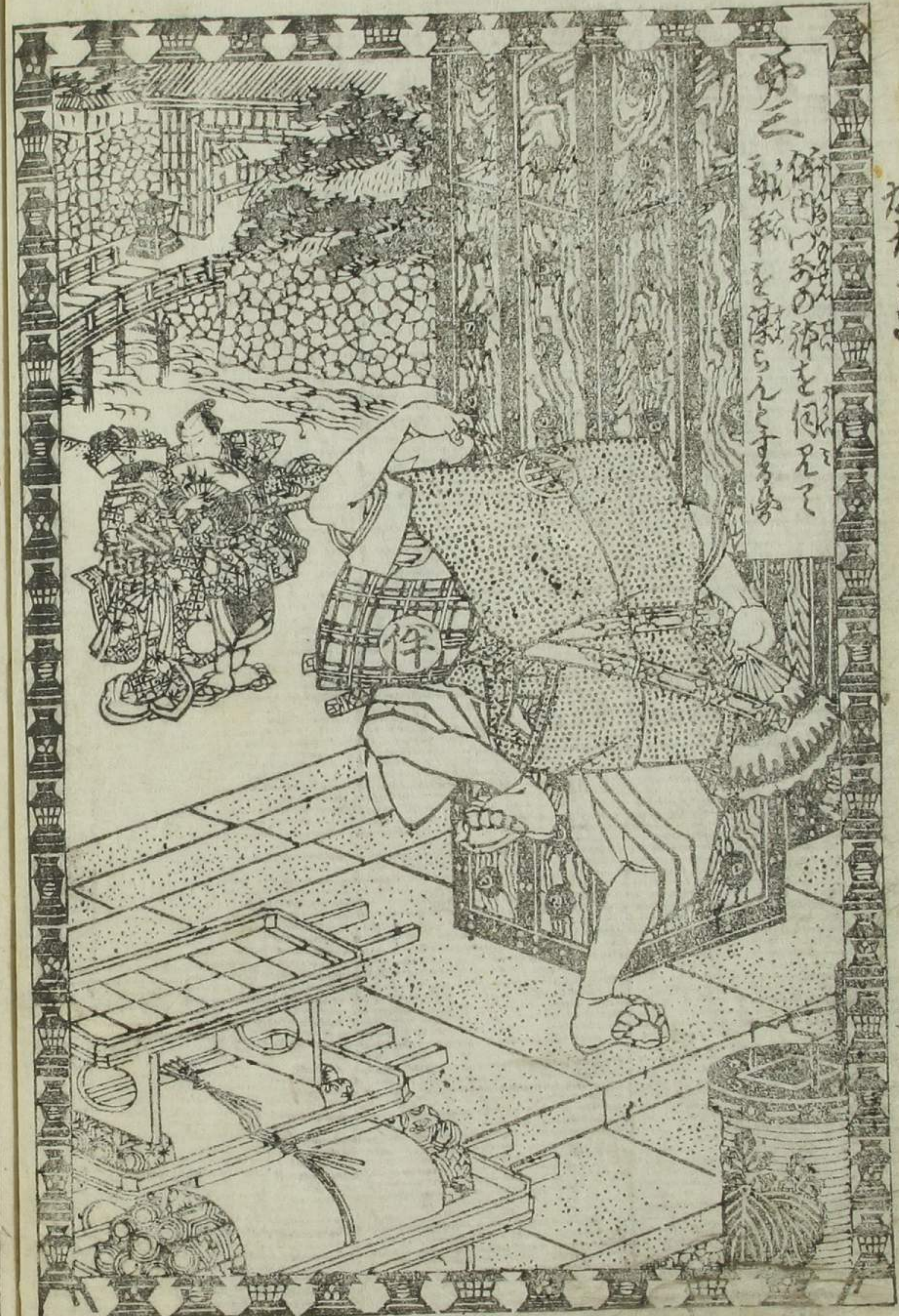
卷之二

子でにまらふことよまら
 ぬいそらうらふあやしんま
 のちあひふ
 ふんあふた
 ぬいそらうらふあやしんま
 のちあひふ
 ふんあふた
 ぬいそらうらふあやしんま
 のちあひふ
 ふんあふた



① あやのせうらふあやしんま
 ぬいそらうらふあやしんま
 のちあひふ
 ふんあふた
 ぬいそらうらふあやしんま
 のちあひふ
 ふんあふた

② あやのせうらふあやしんま
 ぬいそらうらふあやしんま
 のちあひふ
 ふんあふた
 ぬいそらうらふあやしんま
 のちあひふ
 ふんあふた



③ あやのせうらふあやしんま
 ぬいそらうらふあやしんま
 のちあひふ
 ふんあふた
 ぬいそらうらふあやしんま
 のちあひふ
 ふんあふた

かたうき

七



まるくの
 ちのひの
 ついでり
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの

まるくの
 ちのひの
 ついでり
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの

回

まるくの
 ちのひの
 ついでり
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの



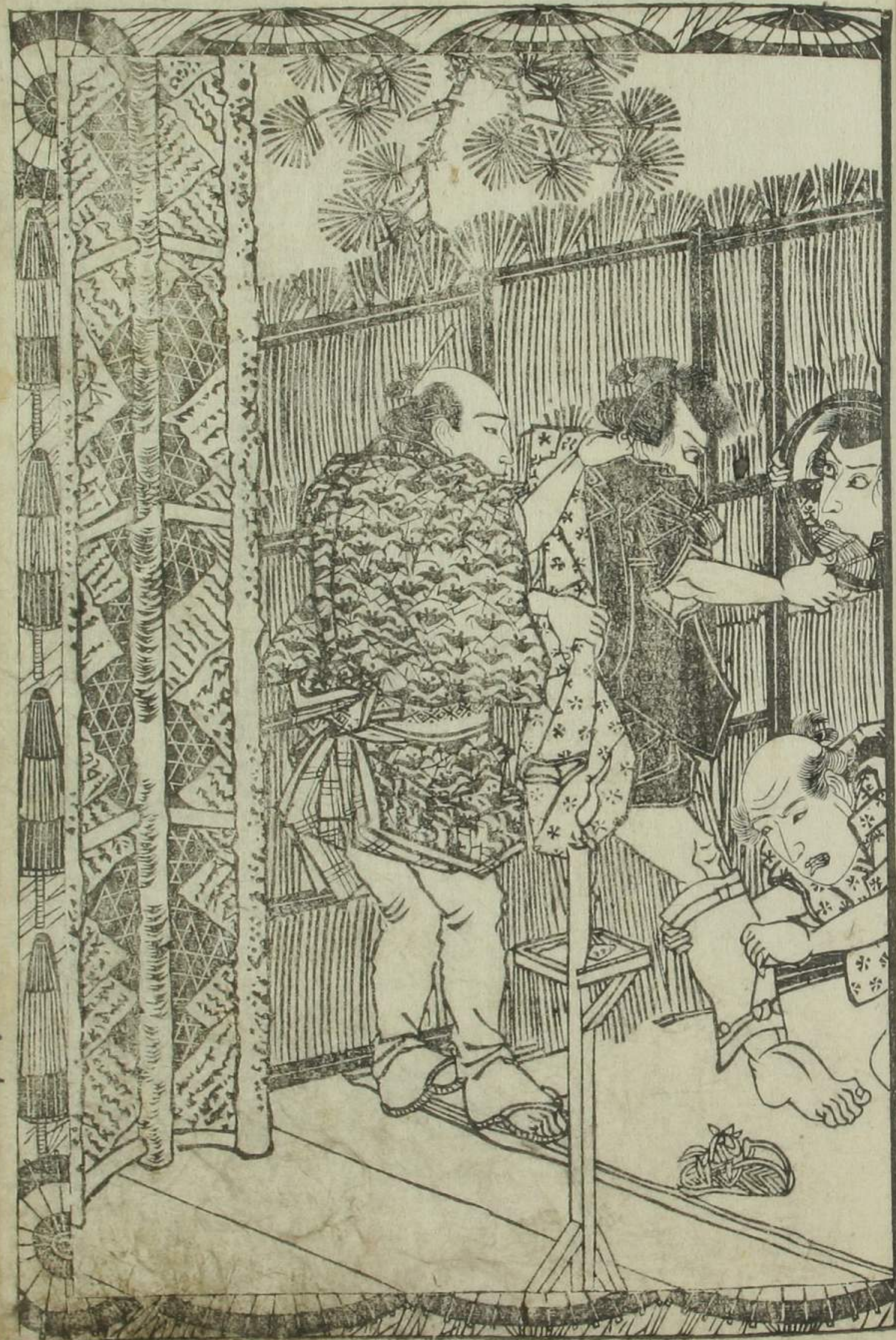
まるくの
 ちのひの
 ついでり
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの

まるくの
 ちのひの
 ついでり
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの

回

まるくの
 ちのひの
 ついでり
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの
 ちのひの





卯入
室九郎と一太夫のけ橋の
入掛の合を在るの事

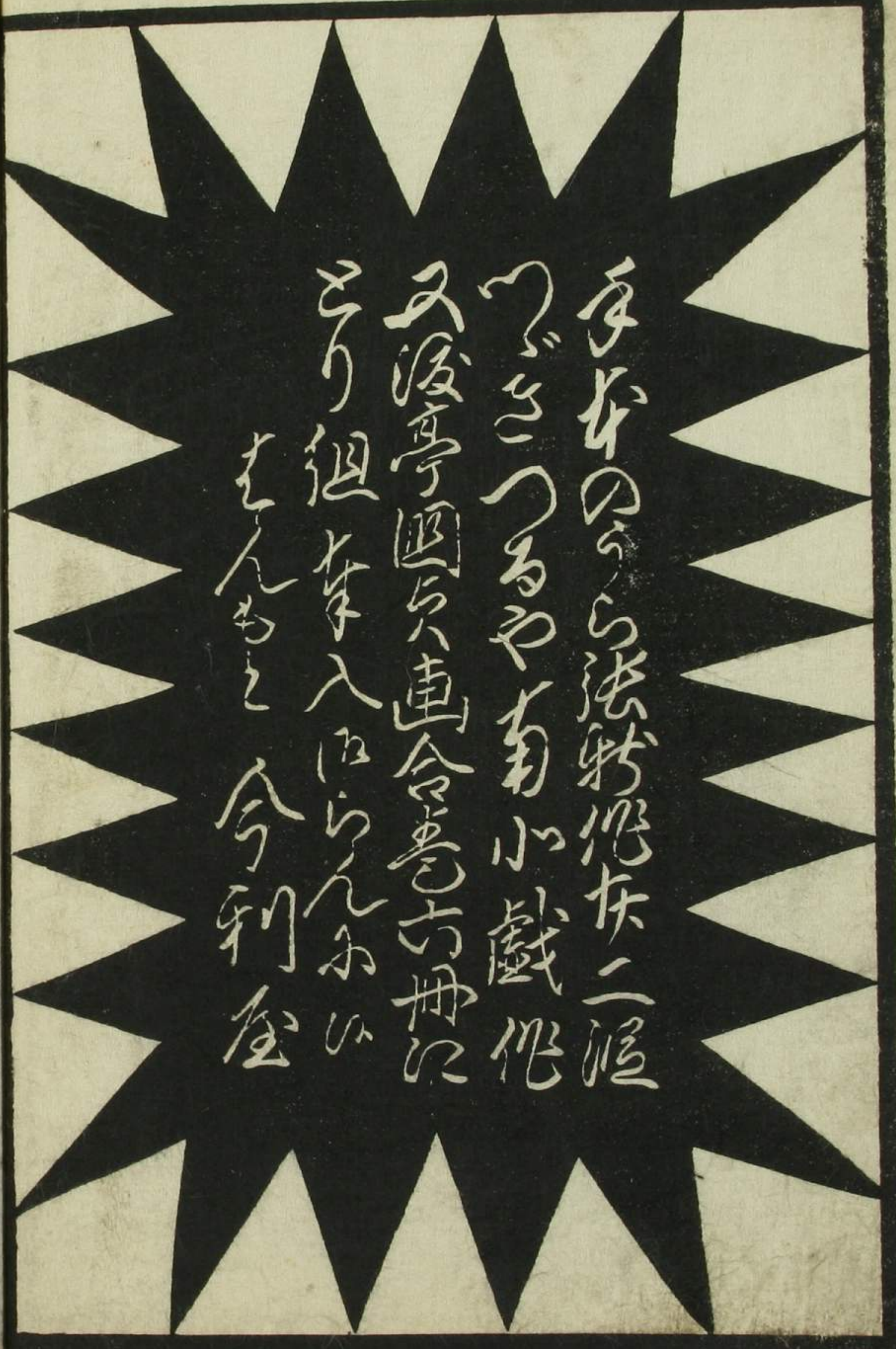
かたがは

七



卷之三

二の...
な...
お...
ご...
う...
け...
ら...
を...
ゆ...
さ...
ふ...
さ...
ま...
あ...
あ...
あ...
あ...



手...
つ...
又...
さ...
ま...
今...
全...

かきく



牙六

物言の二重と看管成士
 面赤せんまを扱統家
 け海怒くまをい支る

かきく

十一

つとてふみたくはなれり
 ちやうにこころのつと
 目もたるとはなれり
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと



ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと

ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと



ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと
 ちやうにこころのつと

七段



大星の御中
 大星の御中
 大星の御中
 大星の御中
 大星の御中



ここのまゝ
 あれこれ
 あれこれ
 あれこれ
 あれこれ

ろのうら
 ろのうら
 ろのうら
 ろのうら
 ろのうら



一 大 風



大風

目

この世は人の世なりて
 さやかの世に似たり
 世の世は人の世なり
 人の世はさやかの世に
 似たり 世の世は人の世
 人の世はさやかの世に
 似たり 世の世は人の世
 人の世はさやかの世に
 似たり 世の世は人の世
 人の世はさやかの世に
 似たり



あつちやうの世
 はさやかの世に
 似たり 世の世は
 人の世に似たり
 人の世はさやかの
 世に似たり

さやかの世は人の世
 に似たり 人の世は
 さやかの世に似たり
 世の世は人の世に
 似たり 人の世はさ
 やかの世に似たり



あつちやうの世は
 さやかの世に似た
 り 人の世はさやか
 の世に似たり

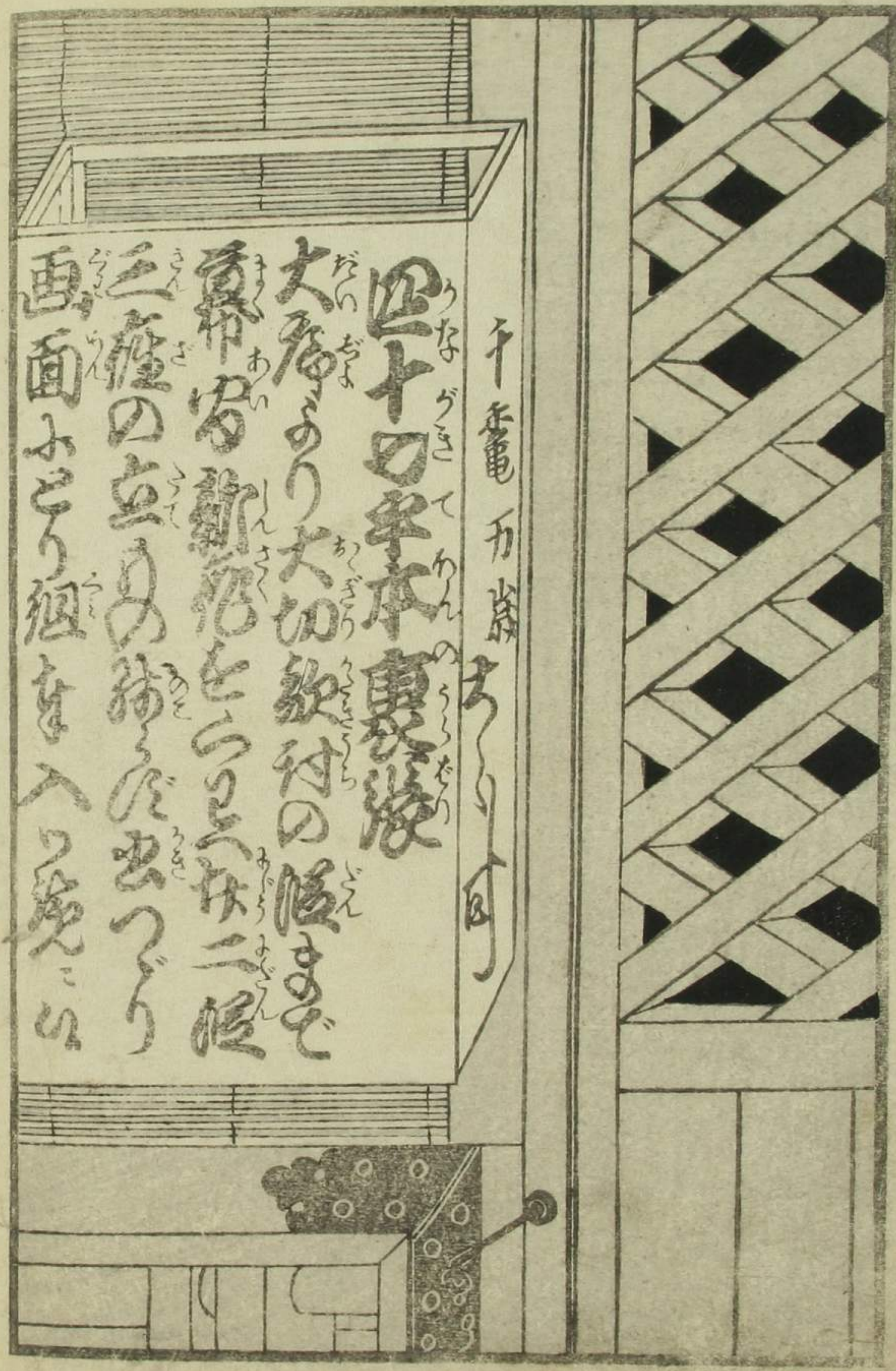




甲のまきつらぎをんせみやまみんせいのりけり
 乙のまきつらぎをんせみやまみんせいのりけり
 丙のまきつらぎをんせみやまみんせいのりけり

丁のまきつらぎをんせみやまみんせいのりけり
 戊のまきつらぎをんせみやまみんせいのりけり
 己のまきつらぎをんせみやまみんせいのりけり

あはれを
 ねんを
 一か
 のぎ
 一か
 のぎ
 一か
 のぎ
 一か
 のぎ
 一か
 のぎ
 一か
 のぎ



四十の半本裏表
 大なるより大切款付の帳まで
 真赤の敷居をのりつと二枚
 三枚の立の跡をのりつと二枚
 画面より廻りを入る境い

千代龍力藤 ちりり可



附り持石戸南世ガ
心産さ個
乃家

大星剛居に降獲雲以
以と係子五福の形江造方

大星剛

十一

五月すまひやとさうの
大寺にふらふらと
あつてお茶をいぢて
くろくちまをたて
おのすまのころも
のすまのころも
でめちのほさつた



イヤモウそののくさ
S...
あつてお茶をいぢて
くろくちまをたて
おのすまのころも
のすまのころも
でめちのほさつた

あつてお茶をいぢて
くろくちまをたて
おのすまのころも
のすまのころも
でめちのほさつた



あつてお茶をいぢて
くろくちまをたて
おのすまのころも
のすまのころも
でめちのほさつた



カ...

9...

へんてなやんかひ
 くれまどいん
 あどいん
 だんをまかを
 へんてなやんかひ
 くれまどいん
 あどいん
 だんをまかを
 へんてなやんかひ
 くれまどいん
 あどいん
 だんをまかを

へんてなやんかひ
 くれまどいん
 あどいん
 だんをまかを
 へんてなやんかひ
 くれまどいん
 あどいん
 だんをまかを



へんてなやんかひ
 くれまどいん
 あどいん
 だんをまかを
 へんてなやんかひ
 くれまどいん
 あどいん
 だんをまかを
 へんてなやんかひ
 くれまどいん
 あどいん
 だんをまかを



へんてなやんかひ
 くれまどいん
 あどいん
 だんをまかを
 へんてなやんかひ
 くれまどいん
 あどいん
 だんをまかを

目段一十

夜に寺の境内に
燈籠を提げて
歩む女
奇蹟の
夜に



九

十

文政九丙戌新春新版

畫師 秋川國貞
 進 作者 雀屋南北
 板元 今利屋
 大星由參助
 大星力弥次
 藤崎 延拾七神

高尾 十三郎 伊達 摸樣 雲 稻妻 六册 山東京山作 市川三升作

傾城 揚羽 蝶花形 六册 市川三升作 市川三升作

後三年 半煉 義家 六册 市川三升作 市川三升作

字子 本 裏 張 六册 市川三升作 市川三升作

美艷 仙女 香 坂本氏 新裝 画 笠 市川三升作 市川三升作

勝角 力 束 春 南 小 旭 今利屋 五藏 板

大和 女 夫 石 後編 六册 出版 四 欠 画

熱陽 孝 製 一 價 全 百 七
 天真 方 粒 王 丹 川 櫻 堂 文
 私 好 和 泉 屋 七 郎 兵 衛
 百 藥 香 推 製 方 櫻 堂 文
 小 間 物 類 概 概 櫻 堂 文
 今 利 屋 五 藏 板

